

「ほう?こんな使い方も!」 目からウロコの ビデオ会議活用術



在宅勤務を含む**テレワーク**や**事業継続性の確保**、**業務効率アップ**など、様々な目的でビデオ会議やWeb会議といった、遠隔会議のためのツールが導入/検討されています。

しかし、「まだまだ使いこなせていない」という企業も多いのが実情です。そこで今回は、ビジネスシーンで遠隔会議ツールの効果を最大限に引き出すためのポイントを、具体的な活用例を含めて紹介します。

【主な内容】

〈注 目〉ビデオ会議とWeb会議は競合製品ではない！ 使い分けのコツを伝授】

日頃から使っていないツールは、いざという時のBCPには役立たない？

部門ごとに活用法は千差万別！【特定部門だけの活用ではモッタイナイ】

〈活用術〉採用面接やセミナーなど、

参加者自身のPCでWebブラウザを利用してビデオ会議に参加

Microsoft Lyncとビデオ会議を融合！社内のメンバーとのコミュニケーション

【建設、医療、教育】の情報共有事例 …ほか

ビデオ会議とWeb会議は競合製品ではない！使い分けのコツを伝授

「ビデオ会議 vs Web会議」というように、2つの製品はライバル的にとらえられるケースもあります。しかし、**実際の導入例をみていくと、それぞれに適したツールを、その時その時のシーンにあわせて使い分けているケースが多い**ものです。

例えば「**自席にしながら1対1で、Excelの資料を参考にしながら簡単な打合せをしたい**」というケースならば「**Web会議**」が**適当**でしょう。

しかし、「**複数の拠点・複数のメンバーで意見を出し合いたい**」ということになった場合、**臨場感が高く、様々なコミュニケーションを可能にする機能も搭載された「ビデオ会議」が選ばれる**でしょう。

このように、2つの製品は競合するものではなく、それぞれのメリットを把握して、かきこく使い分ければ、それぞれの力を最大限に引き出すことができるのです。

1対1ならWeb会議



複数人数ならビデオ会議



PCやモバイル端末でもビデオ会議を活用！

【活用術 1】採用面接やセミナーなど、参加者自身のPCでWebブラウザを利用してビデオ会議に参加

「ビデオ会議は専用の会議室からだけしか使えない」と思い込んでいませんか？

実は、**専用会議室だけでなく、PCやタブレット、スマートフォンによるビデオ会議という形態も可能**です。

個人所有の端末には特別なソフトが入っていなくとも、メールで送った招待用URLをブラウザで開けばビデオ会議に参加することができるのです。

こうすれば、遠隔地にいる相手の採用面接を行ったり、実際のセミナー会場を確保しなくても、リアルタイムのオンラインセミナーを開催するなど、**不特定多数の参加者とビデオ会議を用いたコミュニケーション**が取れるのです。

【注目動画】不特定多数とビデオ会議ってどんなこと？

ビデオ会議を使った採用面接はどんな手順で行う？

YouTubeの動画で活用イメージをチェック

【活用術 2】顧客満足度UPのためにビデオ会議を活用！

遠隔での面接



オンラインセミナー



例えば、金融機関で顧客満足度向上のために、ファイナンシャル・プランナー（FP）による相談会を、主要支店で開催するとします。

しかし、遠隔の顧客は支店に足を運ぶのが難しければ参加できませんし、一方の、FPも1日に回れる支店の数は限られてしまいます。

活用術 1で紹介した、不特定多数の相手とコミュニケーションできるビデオ会議を活用すれば、**顧客は自宅のPCから、支店にいるFPと遠隔で相談**が可能になります。

また、PCやタブレット、スマートフォンにアプリケーションをインストールし、ビデオ会議の端末として活用することも可能ですので、担当の**営業マンが希望者の自宅にビデオ会議を行えるタブレットを持参**するということもできます。

更に、支店の会議室で開催される相談会などに、FP自身も別拠点からモバイル端末を利用してビデオ参加することで、**より多くのお客様の声に対応**し、適切な情報を即時提供することで効率的なサービス提供が可能です。

営業が持参したタブレットで



異なる支店とつないで相談会



【活用術 3】 Microsoft Lyncとビデオ会議をいいとこ取り！ 社内のメンバーといつでもコミュニケーション

ビデオ会議とLync会議を融合して活用することもできます。Microsoft Lyncを用いることで「**今●●さんとは、どういうコミュニケーションが最適なのか**」がつかめるようになります。

というのも、あらかじめビデオ会議（あるいはLync会議）の開催を決めていた相手ならともかく、思い立った時に相手とすぐにコミュニケーションが取れるのかは把握しにくいものです。

しかし、Microsoft Lyncで相手のステータスが分かれば、通常のIM(インスタントメッセージ) や1対1のLync会議を実施するだけでなく、

- ・テレワーク中の相手はLyncで、こちらは会議室からビデオ会議に参加
- ・360度のパノラマカメラを併用してLync会議を参加者が全員見える複数人数同士の会議を実現
- ・HD品質の音声&ハンズフリーでのLync会議を実現

…など、便利なLyncソリューションに、ビデオ会議ソリューションを連携させることで、更に臨場感のある多様なコミュニケーションが可能な環境になります。

【注目動画】 ビデオ会議？ Lync会議？ 電話？

様々なコミュニケーションが可能な

「Microsoft Lync連携」とは？



どれが最適か選択できる！



注目ポイント！ 日頃から使っていないツールは いざという時のBCPには役立たない？

遠隔会議のツールの導入目的が「BCPのため」という企業も多いでしょう。しかし、普段から使っていないツールでは、いざという時にスムーズに活用できません。

そもそも、遠隔会議用のツール導入のために投資をするのですから、**有事の時のためだけというのもモッタナイ**はずです。それだけに**「普段から多くの社員がツールを活用している」というシーンを作り出すことが、いざという時の対策**にもなるのです。

例えば**大手建設会社では、月に400回を超えるほどの会議が開催**されるほどビデオ会議システムが全社に浸透しています。「使われるシステム」とするための施策もダウンロード資料で紹介しているので、是非参考にしてください。

高画質や高音質、安定性が求められるビデオ会議とは？

【活用術 4】 医療、教育（高校・大学）の情報共有

冒頭で、各遠隔会議のツールの特性をつかんで使い分けるといったポイントを紹介しましたが、**ビデオ会議には「高画質・高音質」といったクオリティや「通信の安定性」が高いという特長**があります。

例えば、大学などの教育機関による医療ネットワークや遠隔講義のインフラとして、ビデオ会議が採用されているのも、**相手の表情の変化などを見逃さない臨場感**があるという特長によるものです。

今回、ダウンロード資料として用意した「**北海道大学（医療ネットワーク）**」「**筑波大学（他大との遠隔講義）**」は、高精細な画質や音声による臨場感が、質の高い議論を展開できるバックボーンとなっています。また、海外の姉妹校とのコミュニケーションを行っている「**東邦高等学校**」の事例も参考にしてください。

【注目動画】海外の医療・研究機関の事例動画も！(字幕)

事例1：ロンドンの小児心臓病科 手術チームと心臓専門医が連携

事例2：ニュージーランド 国立大気水圏研究所

課題

Challenge

遠隔地を結ぶことで、専門医による患者のケアを円滑に行うためのインフラを構築し、地方の医療水準を高めるための取り組みが求められていた。

Solution

高度な画質と安定性を確保し、リアルタイムで議論を掛け合い、臨場感溢れるコミュニケーションを実現するためのインフラを構築した。

Result

高度な画質と安定性を確保し、リアルタイムで議論を掛け合い、臨場感溢れるコミュニケーションを実現するためのインフラを構築した。

北海道大学

課題

Challenge

遠隔地を結ぶことで、専門医による患者のケアを円滑に行うためのインフラを構築し、地方の医療水準を高めるための取り組みが求められていた。

Solution

高度な画質と安定性を確保し、リアルタイムで議論を掛け合い、臨場感溢れるコミュニケーションを実現するためのインフラを構築した。

Result

高度な画質と安定性を確保し、リアルタイムで議論を掛け合い、臨場感溢れるコミュニケーションを実現するためのインフラを構築した。

筑波大学

教育・医療(大学病院)では精細な画質や安定性でビデオ会議を選択

【活用術 5】グローバル化された製造業でコミュニケーション改革「品質管理×製造工場」「企画×設計」「国内×海外」…他

本社と製造拠点、営業拠点などが国をまたいで展開されている製造業では、生産力をあげるためにビデオ会議が有効です。

こちらダウンロード資料『生産力をあげるビデオ会議(製造業)』を用意しましたが、グローバル展開する製造業では、各国のビジネス習慣や文化・規制を理解しながらサプライヤーを管理し、製造拠点と密なコミュニケーションを図る必要があります。

特定のスタッフや部署に限らず、幅広い部門間・拠点間でビデオ会議を有効活用することは、単に出張費用の削減といったコスト面だけでなく、多彩な効果が生じます。

▼ダウンロード資料では！
「製造業者にとっての10のメリット」も紹介

製造業が抱える課題

グローバル展開、多国籍経営の進展に伴って、多国籍企業間のコミュニケーションが課題となり、生産性を低下させている。また、品質管理、企画設計、国内海外間のコミュニケーションが課題となり、生産性を低下させている。

製造業を盛り上げる課題

多国籍企業間のコミュニケーションが課題となり、生産性を低下させている。また、品質管理、企画設計、国内海外間のコミュニケーションが課題となり、生産性を低下させている。

コミュニケーションの変革によって、解決できる課題があります。

ビデオ会議を活用することで、多国籍企業間のコミュニケーションが課題となり、生産性を低下させている。また、品質管理、企画設計、国内海外間のコミュニケーションが課題となり、生産性を低下させている。

場所や環境を問わないビデオ会議が、社内のコミュニケーションを促進し、結果的に生産性を高めます。

注目ポイント！ 部門ごとに活用法は千差万別！ 特定部門だけの活用ではもったいない

ビデオ会議の費用対効果を最大限に引き出すには、多くのシーンで活用されることが近道です。**使えば使うほど、TCOが削減**されるのは言うまでもありません。

そのためには、既にビデオ会議を導入済みの企業でも、「役員会議だけ」というように**使い方を決めつけてしまわないのが重要**です。今回の記事を参考に、幅広い部門で多様な活用法を検討してみてはいかがでしょうか。

あなたの会社にとって最適の「新たなワークスタイル」「新たなコミュニケーション」が見えてくるはずです。

製品・サービスの取扱い企業 **ポリコムジャパン株式会社**

掲載企業 **ポリコムジャパン株式会社**

 **RECRUIT** (C) Recruit Marketing Partners Co.,Ltd.

印刷日：2015/02/25